

特定操縦技能審査 機長の出発前の確認事項【滑空機】 要領とチェックシート

パイロット氏名:		実施日:	年 月 日
飛行場所:	<input type="checkbox"/> 角田滑空場、 <input type="checkbox"/> その他	滑空機:	<input type="checkbox"/> ASK21 JA2326、 <input type="checkbox"/> ASK21 JA40AK、 <input type="checkbox"/> その他

機長の出発前の確認事項

<航空法第73条の2、施行規則第164条の14>

<法> 機長は、国土交通省令で定めるところにより、航空機が航行に支障がないこと、その他運航に必要な準備が整っていることを確認した後でなければ、航空機を出発させてはならない。

<規則> 機長は、以下に掲げる事項を確認する場合において、航空日誌その他の整備に関する記録の点検、航空機の外部点検及び発動機の地上試運転その他航空機の作動点検を行わなければならない。

- (1) 当該航空機およびこれに装備すべきものの整備状況
- (2) 離陸重量、着陸重量、重心位置及び重量分布
- (3) 法99条の規定により国土交通大臣が提供する情報 = 航空情報
- (4) 当該航行に必要な気象情報
- (5) 燃料及び滑油の搭載量及びその品質
- (6) 積載物の安全性

(0) 航空機積載書類の確認

滑空機の場合、搭載が免除されている ⇒ 定置場所は収納鞆に入れてピストに

- ・登録証明書
- ・耐空証明書
- ・運用限界等指定書
- ・飛行規程
- ・搭載用航空日誌
- ・無線局免許状
- ・飛行の区間、飛行の方式その他飛行の特性に応じて適切な航空図

有効期限 _____年 ____月 ____日

* 航空日誌には前回飛行までの飛行時間及び機長署名があること

(1) 当該航空機およびこれに装備すべきものの整備状況

⇒ 問題なし

- ・航空日誌等の書類から、以下の情報を収集し整理して、飛行に問題がないことを確認する。
- ・飛行前に、実機をチェックリストに従って点検し、出発に支障がないことを最終確認する。

A. 機体の状況	
国籍および登録記号	JA
種類・等級および型式	滑空機 上級 アレキサンダー・シュライハー式ASK21型
総飛行時間 / 回数	時間 分 / 回
耐空検査	前回検査日: _____年 ____月 ____日
	検査後の飛行時間/回数: _____時間 ____分 / _____回
100時間点検	前回検査日: _____年 ____月 ____日
	検査後の飛行時間/回数: _____時間 ____分 / _____回
不具合及びその処置	

B. 装備品の状況			
種類	交換日・点検日	状態	交換・点検時期 要件
航空機曳航用(AT)リリース	年 月 日 交換	取付から 回使用	2000 発 (交換)
ウインチ曳航用(CG)リリース	年 月 日 交換	取付から 回使用	2000 発 (交換)
縛帯	年 月 日 製造	取付から _____年 ____か月使用	12 年 (交換)
静圧系統	年 月 日 点検	点検から _____か月使用	24 か月 (点検)
高度計	前席: _____年 ____月 ____日 点検	前席: 点検から _____か月使用 後席: 点検から _____か月使用	24 か月 (点検)
	後席: _____年 ____月 ____日 点検		
VHF無線等 通信機器	年 月 日 検査	点検から _____か月使用	12 か月 (検査)

C. TCD / SB or TN 実施状況		
番号	件名	実施年月日

D. 装備すべき救急用具の状況 <規則151条>			
種類	装備数	点検期間 要件	前回点検実施日
非常信号灯	1	60日	年 月 日
携帯灯	1	60日	年 月 日
救急箱	1	60日	年 月 日

(2) 離陸重量、着陸重量、重心位置及び重量分布

⇒ 問題なし

- ・離陸時、飛行中並びに着陸時の重量・重心位置、重量分布の確認をする。
- ・離陸重量(=着陸重量)を算出し、前席の操縦席重量及び後席の操縦席重量から、早見表(操縦席内に搭載)を用いて、重心位置が許容範囲にあることを確認する。自重に含まれる装置品が外されている場合には、相当分「操縦席重量」を調整する。
- ・離陸重量に対する重量分布の確認をする。前席・後席・荷物室のそれぞれにどのような割合で搭載しているか、及びそのフライトに与える影響を確認する。

ASK21 JA2326		備考
自重	406.5 kg	バッテリー1台(4kg)及び酸素ボトル(7kg)を含む
前席の操縦席重量	kg	最小70kg・最大110kg、パイロット体重 + パラシュート 5kg + 固定パラスト 1.25kg x 2個 + 追加パラスト + その他持ち込み荷物
後席の操縦席重量	kg	最大90kg、パイロット体重 + パラシュート 5kg + その他持ち込み荷物(救急用品を含む)
離陸重量	kg	最大許容重量 600kg
重心位置	mm	許容重心位置の範囲は、基準点(*)後方 234~469 mm。*: 主翼翼根部前縁

ASK21 JA40AK		備考
自重	383.7 kg	バッテリー1台(4kg)を含む
前席の操縦席重量	kg	最小70kg・最大110kg、パイロット体重 + パラシュート 7kg + 固定パラスト 1.25kg x 10個 + 追加パラスト + その他持ち込み荷物
後席の操縦席重量	kg	最大100kg、パイロット体重 + パラシュート 7kg + その他持ち込み荷物(救急用品を含む)
離陸重量	kg	最大許容重量 600kg
重心位置	mm	許容重心位置の範囲は、基準点(*)後方 234~469 mm。*: 主翼翼根部前縁

(3) 法99条の規定により国土交通大臣が提供する情報 = 航空情報

⇒ 問題なし

- ・以下の情報源から、使用する滑空場及び航路上の航行に影響のある項目を確認する。

- * AIP (28日毎に発行)
- * AIP AMENDMENT (28日毎に発行)
- * AIP SUP (適時発行)
- * AIC サーキュラー (適時発行)
- * NOTAM

- ・NOTAMに準ずるものとして、角田滑空場におけるローカルルールの変更(暫定を含め)がないか確認

特記:

(4) 当該航行に必要な気象情報

⇒ 飛行可能

- ・出発地・飛行空域・航路・目的地を勘案し、以下の情報源から収集したデータを解析して、現在の気象状況を把握し今後の気象変化を予想することによって、出発と飛行継続の可否を決定する。
- ・角田滑空場では、内陸部に位置すること・阿武隈丘陵の影響を受けること等によって、仙台空港(RJSS)の気象情報がそのまま適用できないことに留意すること。
- ・解析のポイント: 気圧配置、トラフ・リッジの位置、前線の移動方向と速度、上層・地表の風(方向と速度)、上層の気温、凍結温度、雲や降水域の広がり、乱気流や雷雨の予報 など。
- ・飛行可否のポイント: 滑空場で定めている最低気象条件(角田滑空場 風速上限値 正対成分12m/s、横風成分5m/s)、VMC要件、視程障害/降雨/降雪/雷/ヒーター・タービュランスなど飛行に影響を与える現象の有無 など。

過去	現在	今後の予想
<ul style="list-style-type: none"> ・地上天気図 ・高層天気図(850、700 hPaなど) ・METAR(RJSS+航路上の適地) ・アメダス観測値や気象レーダー記録等のデータ ・パイロットからのレポート ・衛星画像による雲の広がり流れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・観天望気 ・滑空場観測器(ウエザーステーション)からの実況値 ・アメダス計測値や気象レーダーからの現況 ・パイロットからのレポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・観天望気 ・ウエザーニュース等が提供する予報 ・予想天気図(地上・高層) ・悪天予報図 ・TAF (RJSS+航路上の適地) ・エマグラム

(5) 燃料および滑油の搭載量およびその品質

⇒ 問題なし

- ・直接的には、動力滑空機に適用すべき項目。滑空機の場合、曳航機もしくは曳航用ウインチの状況が飛行に適していることを確認する。

(6) 積載物の安全性

⇒ 問題なし

- ・救急用品(非常信号灯・携帯灯・救急箱)、バッテリー、パラスト類などの搭載物が適切に固定/固縛されていることを確認する。

以上